

令和2年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和2年8月21日(金) 午前10時～正午

【場 所】 豊田市役所 南51会議室

【出席者】 (委 員) 菊池 秀夫 (中京大学スポーツ科学部 教授)《会長》
福岡 信明 ((公財)豊田市スポーツ協会 常務理事)《副会長》
赤川 鈴治 (豊田市区長会 副会長)
岩月 富士雄 ((一社)豊田市身障協会 会長)
梅村 郁仁 ((株)名古屋グランパスエイト 広報コミュニケーション部 部長)
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長)
岸田 多加司 (トヨタ自動車(株)総務・人事本部 地域貢献グループ長)
佐宗 敏久 (中小学校体育連盟豊田支所 副支所長)
谷山 由香利 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)
徳増 年彦 ((株)豊田スタジアム 常務取締役)
藤村 文也 (豊田市サッカー協会 理事長)
安江 与志幸 (豊田市ラグビーフットボール協会 理事)
築瀬 歩 (しもやまスポーツクラブ 事務局長)

【欠席者】 (委 員) 岩月 幸雄 (豊田市健康づくり協議会 会長)
黒川 悠 (公募委員)

【事務局】 粕谷 浩二 (生涯活躍部部長) 清水 章 (生涯活躍部副部長)
近藤 孝浩 (生涯スポーツ推進課課長) 塚田 知宏 (スポーツ戦略課課長)
都築 保裕 (生涯スポーツ推進課副課長) 畔柳 隆二 (スポーツ戦略課副課長)
阿垣 一大 (生涯スポーツ推進課担当) 太田 信人 (スポーツ戦略課担当)
岩月 克文 (生涯スポーツ推進課担当) 小石 拓也 (生涯スポーツ推進課主査)

【傍聴人】 なし

【次 第】 1 委嘱状交付
2 会長あいさつ
3 新規就任委員あいさつ
4 生涯活躍部あいさつ
5 議題
(1) (仮称) 第4次豊田市生涯スポーツプランの策定スケジュールについて
(2) 第3次豊田市生涯スポーツプランの振り返りと第8次豊田市総合計画後期実践計画(案)について
6 その他
(1) (仮称) 第4次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けたアンケートについて

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）（仮称）第４次豊田市生涯スポーツプランの策定スケジュールについて

事務局：資料に基づき、（仮称）第４次豊田市生涯スポーツプランの策定スケジュールの説明

会 長：事務局から説明のあった内容について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

委 員：令和３年１月に予定されている令和２年度第２回審議会から令和３年７月に予定されている令和３年度第１回審議会の期間に、事務局から各団体へ内容の確認等をするということによいか。

事務局：その予定である。特に施策内容の検討については、関係団体と協議を行いながら、進めていきたいと思う。

会 長：そのほか、ご意見やご質問がないようなので、事務局より提案のあった策定スケジュールで（仮称）第４次豊田市生涯スポーツプランの策定を進めるということで、皆様よろしく願います。

■議題（２）第３次豊田市生涯スポーツプランの振り返りと第８次豊田市総合計画後期実践計画（案）について

事務局：資料に基づき、第３次豊田市生涯スポーツプランの振り返りと第８次豊田市総合計画後期実践計画（案）について説明

会 長：ただいま事務局より、「する」「楽しむ」「支える」という３つの観点より説明してもらいました。まずは、「する」スポーツについて、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

委 員：子どもたちの体力低下を懸念する根拠として、体力・運動能力調査の結果が挙げられている。しかし、現在愛知県教育委員会が主催する子どもの体力向上検討委員会では、体力・運動能力調査の結果を上げようと思えば各調査項目の練習をすれば上げられるが、数値の向上ではなく、本質的な体力向上を求めるべきではないかということが議論になっている。また、豊田市は子どもたちに対してコーディネーショントレーニングを重点的に推進していると思うが、それに対して指標が体力・運動能力調査というのもし少し矛盾しているように感じる。

事務局：別の指標で１日６０分以上運動する小学生の割合も大きく減っているため、子どもたちの体力低下というのはあるのではないかと考えている。それについては、我々よりも実際に現場で子どもたちを指導しているスポーツ少年団や地域スポーツクラブの方々、また学校の先生方の方が肌感覚で感じているものはあると考えている。そのため、今後皆様方へのヒアリングを通じて、そういった点を確認しながら、今後の方向性を一緒に検討いただきたいと考えている。

委 員：１日６０分以上運動する小学生の割合が大きく減った要因としては、暑さへの対策が一つ挙げられると思う。小学校では暑さ対策として、７月～９月の期間については部活動を行っていない。そういったことや新型コロナウイルス感染症の影響から、運動をする子としない子の二極化が今後さらに進むと考えている。体力・運動能力調査については、練習を行うことで結果を向上させていこうと現在は考えている。

会 長：愛知県教育委員会でも体力・運動能力調査のことが議論になっているのは、愛知県の体力・運動能力調査の結果がよくないことに起因しているものなのか。

委 員：愛知県は、全国的に見たときに体力・運動能力調査の現状の数値は低いほうであるため、今後、体力・運動能力調査の結果を向上させるという指標を設定したいとの提案があったが、

ある委員からは体力・運動能力調査の結果を向上させることは練習をすれば上がると思うが、そういったことを進めていくべきなのか、根本的に子どもたちの体力向上を図ることを推進していくべきなのか、今一度考えるべきだという内容の発言があった、ということである。

委員：成果指標のうち、「地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の教室に参加した中学生以下の子どもの延べ人数」がいずれの年度も目標値に達成していない原因を確認したい。また、もう一つの成果指標である「新たに地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の教室等に参加した中高齢者の数」においても目標値に達成しておらず、策定時の人数の掲載もないため、現状を把握することもできない。また、少子化の中では、子どもたちの事業において人数という指標を設定した際には、現状維持がやっとではないか。次期スポーツプランの指標設定にあたっては、しっかりと現状を確認し、高すぎる目標設定をするべきではないと考えている。

事務局：まず、「新たに地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の教室等に参加した中高齢者の数」という指標について、策定時の数値の把握をしていないという点については、委員ご指摘の通りだと認識している。次期計画策定においては、その点を反省し指標の設定を行っていきたいと考えている。また、「地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の教室に参加した中学生以下の子どもの延べ人数」においても少子化の影響はあると考えている。同じく子どもたちを対象にスポーツ推進を行っているスポーツ少年団においても、団員数は減少傾向にある。また、延べ人数という点では、暑さの影響で夏季の活動が今まで通りにはできなくなったことや、昨年度については新型コロナウイルス感染症の影響などが目標値に至らなかった要因であると考えている。そういったことを踏まえながら目標値の設定を検討していきたい。

委員：私からも成果指標のことについて提案をさせていただく。まず、現在の成果指標の案として、「中学生以下」と「高校生以上」に分けて教室等への延べ参加者数ということになっている。しかし、より多くの人に対してスポーツの機会を提供するということを目標に掲げていく必要があると思う。延べ人数では一人がたくさんの回数参加した場合も数字として大きな数字として表れてしまうため、実人数を指標に設定すべきであると思う。より多くのスポーツの機会を提供するという点においては、教室などの事業数を指標に入れるべきだと思う。また、地域スポーツクラブや競技団体、少年団には加盟していないがスポーツをしている人もいると思うため、スポーツ実施率についても指標の一つとして掲げるべきであると思う。

事務局：集計の方法も含めて検討させていただきたいと思う。

会長：それでは、続いて「楽しむ」スポーツについて、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

委員：スポーツ基本計画では「する」「みる」「支える」という表現をしているが、あえて「みる」ではなく「楽しむ」とした点について、経緯等を確認したい。

事務局：現行の第3次豊田市生涯スポーツプランの前の計画にあたる、第2次豊田市生涯スポーツプランにおいては、「する」「みる」「支える」という表現をしていた。しかし、現行の第3次豊田市生涯スポーツプランの策定にあたり、「みる」というものを「楽しむ」という表現へ変更した。もちろん「楽しむ」スポーツの中にはスポーツを「みる」ということも含めているが、トップスポーツ選手とのふれあいなど、直接的にスポーツを「みる」こと以外も含めて推進していくということで、「楽しむ」という表現とした。

会長：私も「みる」を「楽しむ」に変更する際には関わっていた。その際にも、事務局からは「みる」ということだけでなく幅広にとらえていきたいという説明だったと理解している。

委員：この部分を「楽しむ」とすることには異論はないが、スポーツを「する」ことや「支える」ことも「楽しむ」ことにつながっているということが少し薄れてしまうのではないかということが不安であると感じる。

委員：(株)豊田スタジアムでは、スタジアムがまちづくりの発展に寄与するという基本理念の基に、中期経営計画の策定をしており、その中では来場者数などの想定をしている。特にJリーグについては、瑞穂陸上競技場の改修に伴い、来シーズンから名古屋グランパスの全てのホームゲームを豊田スタジアムで開催予定である。また、ラグビーについても、新リーグ構想や昨年ラグビーワールドカップの開催もあり、いかにして市民の方にラグビーに親んでもらうかということを考えている。そのような中で、資料にあるような「大規模スポーツイベントの誘致」は非常に重要なものだと考えている。日本各地で様々なスタジアムが建設されており、今後はスタジアム間での競争が起こると考えている。そのため、市とも協議しながら、いかにサッカーやラグビーを始めとした大規模スポーツイベントを誘致できるかということを検討している。また、資料の中にも「市独自のおもてなし事業」とあるが、昨年のラグビーワールドカップのようにスタジアムだけでなく様々な場所で来場者の方をおもてなしすることで、豊田市の良さを感じてほしいと考えている。

委員：現在トヨタ自動車ヴェルブリッツは短パンに「WE LOVE とよた」のロゴを入れている。ラグビーワールドカップ後は、特に姫野選手が様々なメディア等に掲載される機会が増え、コアなラグビーファンだけでなく、様々な人がユニフォーム姿の姫野選手を通じて「WE LOVE とよた」のロゴを見る機会が増えていると思う。私も、そういった姿を見ると、一市民としても市としての結束感のようなものを感じている。ぜひ、トップスポーツチームやわがまちアスリートを応援するような事業については継続して進めてほしいと考えている。

事務局：「WE LOVE とよた」のロゴについては、お話のあったトヨタ自動車ヴェルブリッツだけでなく、トヨタ自動車硬式野球部もヘルメットに入れていただくなど、トヨタ自動車にご協力いただきながら進めさせていただいている。これは本当にありがたいことであり、改めて感謝申し上げたい。また、トヨタ自動車ヴェルブリッツとの連携については、先ほど話のあった新リーグの話もあるため、今まで以上に連携を取りながら様々な事業を展開していきたいということで協議をさせていただいている。

委員：トヨタ自動車としては、所属しているアスリートやOBが「夢の教室」に参画したり、「豊田スポーツアカデミー」を立上げ中学生へ高度な技術を教えたり、こども園や障がい者施設を訪問したりといった活動を行っている。そういった中で、地域の方がトップアスリートに何を期待しているのかということを考えており、その期待に沿えるようにしていきたいと思っている。しかし、その一方でアスリートであるため、試合日程等の都合から活動に制限が出る部分もあるという課題はある。その課題はありながらも、アスリートのセカンドキャリアのことも考え、今まで以上にスポーツの普及などの地域貢献活動が実施しやすい働き方を検討していきたいと考えている。

委員：指標についてですが、「スポーツチームやトップアスリートと市が連携して実施した取組の延べ参加者人数」とありますが、こちらも可能であれば実人数の方が良いと思う。また事業数も指標の一つに入れるべきかと思う。また、もう一つの指標として「中央公園（豊田スタジアム）及びスカイホール豊田の施設利用者数」とあるが、この指標だと市民の「する」スポーツで施設を利用する方も含まれるため、「みる」スポーツの数と観客数を指標とすべき

かと思う。また、スポーツツーリズムの推進も記載があるが、それに関する指標がないため、そういった指標も設定すべきかと思う。

事務局：スポーツツーリズムの目的としては、大規模スポーツイベントの誘致や既存イベントの集客力を高めることで来場者を増やすとともに、来場者へ様々な仕掛けを行いながら宿泊や飲食へ繋げることでまちの活性化を図っていきたいというものである。今回、「中央公園（豊田スタジアム）及びスカイホール豊田の施設利用者数」の指標を掲げたのは、多くの大規模スポーツイベントが豊田スタジアムとスカイホール豊田で開催されるため、この施設利用者数の推移を確認することで、スポーツイベントの集客力を確認できると考えていたが、頂いた意見を踏まえ再検討したいと考えている。

また、まちの活性化に関する指標ですが、一部のスポーツイベントに対して経済波及効果の調査を行っている。そういった内容も含めて指標を検討していきたいと考えている。

会長：大学としても、分析業務等で協力できるものがあれば、ぜひ相談いただければと思う。

委員：名古屋グランパスのホームタウン活動についても、ファンクラブの会員数など数値目標として表せるとよいのではないか。

委員：豊田市とも様々な連携した事業を行う中で、まちの中にも名古屋グランパスの色が出ており、豊田スタジアムでの試合にも非常に多くの方に来ていただいている。来シーズンからは、全ての名古屋グランパスのホームゲームを豊田スタジアムで開催するというので、今まで以上にスポーツツーリズムに寄与できるのではないかと思う。そのため、引き続き、豊田市と連携しながら様々な取り組みを進めていければと考えており、委員からご提案のあった数値目標についても、何らかの数値を設定することはできるのではないかと考えている。

事務局：ホームタウン活動は、試合時の集客力を高めるということも効果の一つであると考えている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、現在は観客数の上限が 5,000 人となっているが、昨年度は豊田スタジアムで 1 試合当たり 34,000 人～35,000 人の観客数であった。今回、豊田スタジアムの来場者数という数値目標が、ホームタウン活動も網羅した成果指標となっていると考えている。

会長：それでは、続いて「支える」スポーツについて、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

委員：今回「支える」スポーツについては、スポーツを「支える」体制強化という表現にもあることから、トヨタ自動車や中京大学、名古屋グランパスなどの企業や大学と一緒に豊田市のスポーツ環境を「支える」仕組みづくりを進めてほしい。

成果指標については、各団体が指導者向けの講習会等を実施していると思うので、そういった内容も指標に入れていただければと思う。また、「スポーツボランティアとよたの登録人数」という指標もあるが、スポーツボランティア以外にも様々な活動を通じてスポーツを「支える」活動をされている方はいるので、そういった方々も含めた指標も入れていただければよいと思う。また、新型コロナウイルス感染症の影響で地域スポーツクラブも非常に困窮していると聞いている。そういった団体への支援体制の強化も含めて検討いただければと考えている。

事務局：まず、企業大学との連携という面においてですが、現在中京大学・トヨタ自動車・豊田市・豊田市スポーツ協会・地域スポーツクラブ会議で地域スポーツコンソーシアム会議という会議を定期的で開催している。現在の状況のため、具体的な事業にまでは結び付いていない状

況だが、こういった団体が一体となって地域スポーツの振興を図っていこうと考えている。また、豊田スポーツアカデミーについてもトヨタ自動車・中京大学・豊田市の産官学連携で進めている内容である。こういった仕組みづくりを関係団体と協議をしながら、さらに進めてまいりたいと考えている。

また、地域スポーツクラブへの支援ですが、金銭的な支援だけでなく様々な支援の方法があるかと思う。支援のあり方も含めて、地域スポーツクラブ会議の中で、地域スポーツクラブ・豊田市スポーツ協会・豊田市で協議をしながら、よりよい支援体制を構築していきたいと思う。

委員：地域スポーツクラブとしても、ただ補助金の交付を受けるだけでなく、地域スポーツクラブからも市のスポーツ推進に寄与していきたい。例えば、各教室の映像を集めて、ケーブルテレビで放送し、市民の方々が自宅で運動をできるコンテンツを作成することなどができると考えている。

また、地域スポーツクラブと同じく地域のスポーツ推進を行っているスポーツ推進委員との連携についても、よりよい形や仕組みをご検討していただきたいと思う。

事務局：映像の件については、現在地域スポーツクラブの教室の指導者に自宅で簡単にできる運動を紹介していただき、その内容をひまわりネットワークの市政情報番組の中で放送している。今後もこういった取組を継続し、市民の方々へのスポーツのきっかけづくりを行いながら、地域スポーツクラブのPRも行っていくことができると考えている。

スポーツ推進委員と地域スポーツクラブの連携強化という部分については、我々としても課題認識はしている。ただ、地域によってスポーツ推進委員と地域スポーツクラブの関わり方がかなり異なることもあり、仕組みづくりが難しいということもある。ただし、いずれも地域のスポーツを推進していくという大きな目的は同じであるため、地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員の方々との協議をしながら、一歩ずつよりよい仕組みづくりができればと考えている。

会長：最後に全体を通じて、何かご意見、ご質問がありましたらお願いします。

委員：現在実施している教育に関するアンケートを通じて、スポーツ実施率などを確認しているが、次はいつ実施される予定か。

事務局：この教育に関するアンケートは教育行政計画の策定に合わせて実施している。教育行政計画の計画期間は4年間になるので、この教育に関するアンケートも4年に一度の実施になる。ただ、スポーツ分野が教育委員会から市長部局へ移ったことを受けて、このスポーツプランも教育行政計画から独立することとなる。そのため、今後は教育に関するアンケートとは別の形で成果指標を確認することになっていくと思う。

委員：そういうことであれば、第4次生涯スポーツプランにおいては、計画期間の中間年にアンケート調査を実施し、第4次生涯スポーツプランの効果の確認を行うとともに次期プランの検討に活かせるようにしていただきたいと思う。

事務局：前向きに検討させていただきます。

委員：スポーツの効用は様々なことがあり、運動しない身体は不健康な身体になってしまうと考えている。しかし、障がい者の場合は運動したくてもできないことがある。例えば、片足が不自由な人が運動できる場というのは限られてしまう。身障協会としても、自分たちで様々な運動機会を創出しなければならないと考えているが、やはりそれを支えてくださる人が必要

だと痛感している。

事務局：障がい者スポーツは、他のスポーツとは支援のあり方等が異なると考えている。今後ヒアリング等を通じて、どのようなあり方がよいかを身障協会と一緒に検討させていただき、スポーツプランにも反映できればと思う。

会長：多くのご意見をいただきましたので、事務局におかれましてはその意見を基に今後の検討を進めていただきたいと思います。それでは、これをもちまして審議を終了いたします。

以上